

式 辞

校庭の桜のつぼみもふくらみはじめ、ここ桐陽台にも春の息吹を感じ始めたこのよき日に、PTA会長 弘法 真 様とともに、広島市議会議員 若林新三 様をはじめとしたご来賓の方々には4年ぶりに、そして、保護者の皆様には人数制限なしにご列席いただく中で、広島市立広島中等教育学校第四回卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。

114名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。振り返れば、皆さんが後期課程に入ってから、常にコロナ禍の中で不自由な学校生活を送らなければなりませんでしたが。6年間の本校での生活の半分以上をコロナ禍で過ごさなければならなかったにもかかわらず、前向きに学校生活を送り、本日、本校教育課程を無事修了され、こうして立派に成長した皆さんの姿を見ることが出来ることに、私たち教職員一同、大きな喜びを感じています。新型コロナウイルスは未だ収束したとは言えず、ロシアのウクライナ侵攻は遠く離れた日本にも半導体不足や輸入品の価格上昇をもたらし、急激な円安は私たちの生活や企業の業績に大きな影響を与えています。このような情勢の中、皆さんは、「家庭や学校」という、言わば守られた時代（とき）を経て、これからは社会の一員として自分でその役割と責任を果たしていくこととなります。恐らくその行く手には様々な困難が待ち構えているでしょう。そこから逃げ出せば、それは皆さんの前に立ちはだかる「大きな壁」となります。一方で、誰かと共に一歩前に踏み出せば、その困難は自分の成長への「階段」に変わります。私は、その「階段」を一步一步着実に登って行ってほしいと願っています。

一方で、今の世の中の傾向として、リスクを回避して労せず結果を求める風潮、長期的な視野で思考・判断する余裕を持たず、短期的な成果や結果ばかりを追い求める風潮が強まっています。寄り道することを良しとせず、最短距離で効率ばかりを優先する思考に陥っているようにも見えます。

また、SNSの世界や実生活の中でも、グローバル化とデジタル化の進展により、世界は大きく広がりました。しかし、広がったがために人々の視野は逆に狭まり、同じ意見の者同士でコミュニケーションを繰り返す、特定の考え方が強化されるという現象も顕在化しています。

このような時代に、今から社会に出て行く皆さんに、私から二つのことをお話しし、贈る言葉とさせていただきます。

まず一つ目は、本校では卒業後、多くの皆さんが進学していきます。ですから、まだ暫くは自分を磨き続けてください。自分の心と身体、そして頭を鍛え磨き続けることです。そのために必要なのが、「自ら学ぶ」姿勢です。それは、関連する知識や技能をどん欲に学び、最新の情報を積極的に収集しながら、指示を待ったりマニュアルに従ったりするだけではなく、自ら進んで学んでいく姿勢です。その「自ら学ぶ」姿勢のもと、生涯にわたり、一見無関係と思える分野にも学びを広げ、幅広い教養を身につけることが、大切だと私は思います。では、教養とは何か、それは、様々な分野の学問を学ぶことで身につけた人間性や知性であり、正解のない課題に対する解決方法を見いだす力でもあると言われていきます。このように、卒業後も「自ら学ぶ」姿勢を大切にして、幅広い教養を身につけてください。

そしてもう一つは誠実さです。私が尊敬する人物の一人に、令和6年から発行される新1万円札の顔となる渋沢栄一がいます。彼は「交際の奥の手は至誠すなわち誠実さである。理にかなない調和がとれていればひとりでの物事はうまくいく。」という言葉を残しています。物事に打ち込むうちには、失敗や挫折もあります。迷うことも、落ち込むことも当然あるでしょう。途中であきらめそうになったり、道を踏み外しそうになることも度々あるでしょう。でも、「誠実」でさえあれば、物事はいずれ必ずやうまくいくと渋沢栄一は言っているのです。私も同じような思いで、これまで教員を続けてきました。皆さんにも誠実さを忘れず、自らが望む高みを目指してほしいと願っています。

最後に、本校の目指す教育は校歌にしっかりと謳われています。「強き信念（こころ）を貫いて道拓きゆく挑戦者（ひと）」を育てていくという教育です。皆さんは、本校での六年間の学び（すなわち「修学」）の中で、それをしっかりと行ってきました。これからも人との繋がりを大切に、お互いを尊重し、思いやる心を持ち続け（つまり「敬愛」です）、そして、「克己」＝自分に打ち克ち、自分の信じる道をしっかりと歩き続けてください。私たち教職員は、いつまでも皆さんを応援しています。

私が四月に本校に着任し、校歌斉唱をする機会は全くありませんでした。このあと、皆さんが歌う校歌が、私が本校で初めて聴く校歌斉唱です。マスクをしたままではありますが、六年間の本校での生活や仲間との思い出を噛みしめながら、心を込めて校歌を歌ってください。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。入学以来、本校教育に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今日、お子様は卒業していかれますが、末長くご縁をいただきますようお願い申し上げます。これからも、保護者の皆様や卒業生の皆さん一人ひとりの人生が、幸多きことを祈念して、式辞といたします。

令和5年3月1日

広島市立広島中等教育学校  
校長 横山 尚司